

# 大念佛

No.64

発行／融通念佛宗総本山  
大念佛寺

大阪市平野区平野上町1-7-26  
TEL.06-6791-0026

## 墓をめぐる現況

少子高齢化社会と核家族化の影響なのか、近年、墓に対する考え方が大きく変化した。墓を建てるのはよいが、これを末代に継承していくことは困難であるからと、樹木葬や合同墓（普同塔）が増えている。また種々の制約はあるものの、山や海などへの散骨を希望する人も多くなっている。加えて、日本人の生活様式の変化が墓にも影響を及ぼしている。

家族の団欒、お茶の間会話もめっきり減ってしまった昨今、それによって大切な家族の絆さえも薄れつつあるのではなかろうか。

平成二十一年、四季社発行の宗教誌に「墓に関する意識調査」（第一生命、平成十七年）を掲載している。それによると、夫婦は同じ墓に入るべきであるという考えについて、「そう思う」男性四十二・二% 女性二十九・四% 「どちらかといえばそう思う」男性二十九・四% 女性三十三・八% 「どちらともいえない」男性二十四・四% 女性十八・五% これに対し否定派は、女性では十七・五% 男性では六・四%である。また先祖の墓を守り供養するのは、男性四十九・六% 女性二十九・九% 「どちらかといえばそう思う」男性三二・五% 女性四十一・五% 否定派は男性四・五% 女性一・一%である。

## 霊魂の鎮まる空間

墓というものは、遺骸（土葬）、

# 墓と供養

融通念佛宗総務局長 吉村 暲 英



ご本尊、宗祖、高僧がたはどこでも祀られているが、わが家のご先祖の霊は子孫が祀らなければ誰がお守りするのかということを考えるべきである。

ある宗派では、仏壇は阿弥陀仏を祀るところであり、ご先祖は阿弥陀仏の本願の中に救い取られているから、ことさら位牌もいらないし、供物も必要ないとする考えがあるらしいが、それは人びとの、亡き人に心を通わす純真な感情を無視したものであり、日本仏教を理解しないものである。

## 墓の起源

墓の起源を尋ねると、紀元前四世紀、お釈迦さまの涅槃（大いなる死）直後にさかのぼる。お釈迦さま亡きあと、偉大な師を慕う修行者は各地に舍利（遺骨）を持ち帰って分祀し、そこに簡素な塚を建てた。やがて大乘仏教の興起とともに、富裕な在家の信仰集団（菩薩団）が立派な塔を建立し、遠方からでも拝めるようにした。これを仏塔崇拜といい、仏塔こそが墓の起源といえるであろう。

その後、日本においても宗祖や高僧の死とともに、その人を鎮仰するために、石碑や堂を建立した。現在、本山を名乗る寺院の中には、宗祖のお墓であったところに堂舎を建てて寺としたという例がかなりある。

およそ亡き人を偲ぶとき、その人の人格や性質など目に見えないものに頼る場合と、遺骨、遺品に頼る場合との二つに大別される。前者は抽象的なもので、これを「理」という。それに対し、後者は形ある具象的なものであり、こ

れを「事」という。理に依るのは大切なことではあるが、これでは心が落ち着かない。何か亡き人を偲ぶ形あるものに依らなければだめなのである。そうした感情が遺骨を拜むことになっていく。お釈迦さまの場合は仏塔を拜むことであつた。われわれもまた、近しい人の遺骨を埋葬した石碑という形あるものに頼る。また仏壇に安置した、これも形ある位牌や過去帳に頼るのである。

## 「事」の大切さ

仏教信仰は「事」を尽くすことが最も大切である。お盆の行事も最近では随分簡略になった。三度ごとに食事をお供えし、一日に何回もお茶をとり替えるといったことも、めっきり少なくなった。「心の中でご先祖さまに手を合わせていればよい。」「心でご先祖のことを感謝しています。」という考えである。一見、感心するように思うが、これではその心にご先祖をつかめないう。ご先祖さまが家にお帰りくださったという実感もわかない。なぜなら怠慢で楽をしたと思うだけの心に先祖の霊魂は遠のいて行くからである。やはりきれいに掃除をし、花をとり替え供物を揃えるなど、精いっぱい供養の汗を流したとき、すなわち事を尽くしたとき、「ああ、ご先祖さまがここに居てくださる。」との実感があふれる。そのとき先祖の霊魂はその人と、家族全員に宿っていく。

## お墓まいりあれこれ

お盆の前に先祖の霊を墓まで迎えに行き、家の精霊棚にお祀りする。お盆の間は墓には先祖の霊が留守だといって、その期間に

墓参りしても意味がないという人がいるが、それは誤りである。真ごころで拜むところに亡き人の霊は即座にその人の心に宿るものである。反対に敬いもせず、墓にも仏壇にも供養の心ひとつ捧げないようでは、霊は忘れ去られた哀れな存在になってしまふであろう。

要するに墓でも仏壇でも、そこをきれいにし供物や香華などで供養の心をささげ尽くせば、そこに亡き人の霊は自ずと喜びをもって、その人の前に来たり給うのである。

また、墓の方位や吉相墓などということにも迷わない方がいい。墓石に水をかけるのか、かけないのか。かけることによって霊魂を洗い清めるのだとの信念があれば、かければよい。生きている人間でも、頭から水をかけられたら困るのに、と思う人はかけなければよい。墓石をたわしなどで磨こうと思えば、磨いてきれいにすることもよし。ことさら磨くまでもなくきれいであれば磨かずともよし。

大切なことは拜む側が、いかにして亡き人の霊と接するか。そこが重要である。



# 大震災復興支援活動

## 傾聴ボランティア

### メンタルヘルスケア 青年会ボランティア活動報告

融通念佛宗青年会

瀧野尚英  
吉村良和

平成二十三年三月十一日、私はお参りの移動中、大阪で奇妙な揺れを感じました。何か自分自身の感覚がおかしくなったのかと・・・その後、次々とニュースで見たとの映像が流れとてもショックを受けました。テレビ、新聞、ラジオ等で毎日毎日そのニュースばかり。同じ日本で大変なことが起きていると思うと、堪らず、何か出来ることを考えても、各法要等で皆様から御協力賜りました義援金をお送りすることしかできず、歯痒い毎日を送っていました。



傾聴ボランティア

そんな中、私たちの団体が加盟している、全日本仏教青年会の救援委員長より願ってもないお話を頂きました。それは「傾聴ボランティア」。委員長からはボランティアによる瓦礫などの撤去は無く、なってきたるので、今の時点で被災された方々のお話を聞く、見

守るということが長きにわたって必要であるので僧侶が適役、とのことでした。とにかく何かの力になりたいと思っていましたので早速手配して頂き、青年会の会員と共に十月、十二月と二回にわたり福島県いわき市に向かうことになりました。しかし、「宗教活動としてはいけない」「明るい爽やかな挨拶を、身だしなみも、第一印象は大切です」「下手なアドバイスはいらぬ」「感情移入し過ぎない、ドライになり過ぎない」「味方ですよ、一人じゃないよ、の信念で穏やかなオーラを醸し出す」

「孤独感、疎外感、絶望感を軽減し、孤独死、自死を防止する。地味だが命を救う最前線の活動」「震災の事をこちらから聞かない」「特別待遇し過ぎない」「二見普通だが、自宅に帰れない状況、ほとんどの方が家族、親族、友人をなくしている現実を常に想像しながら会話する」など、事前に教えて頂いた注意点が、我々を不安にしました。しかし、不安になるも細心の注意を払い、十月二十四日、二十五日で今回の活動場所である、「いわき市中央高久仮設住宅集会所」「いわき市植田雇用促進住宅集会所」へ。集まって頂いた方には大阪より持参した抹茶和菓子で接しなご話を聞かせてもらいました。子供さんや孫さんの話、震災前に亡くなった御主人の話など。そんな中で、私たちが普段の生活で天気の会話をすると同じような感覚で、被災者同士、「今日の



たこ焼きボランティア

〇〇地方の放射線量は〇〇だったよ。」という会話をされているのを聞いて福島の厳しい現実を見せられました。使用する水も水道水は控えてすべて集会所のペットボトルのものを使用しました。「大阪はいいところですね。」と何人かの方に言ってもらいましたが、「いいところですよ、是非来て下さい。」と積極的に言えず、かといって「福島もいいところ。」とも言えず、何とも言えない複雑な気持ちになりました。また、ボランティアセンターの職員さんも被災されていて、復興の志と被災者の力になりたいという熱い想いを感じました。

十月に続き、二回目は大阪らしいことで喜んでもらえたらと、十月八日、九日で日程を組み、たこ焼きを目の前で焼きながら話をさせて頂くことにしました。そして再び、「いわき市中央高久仮



全日本仏教青年会主催一周忌法要

設住宅集会所」それと今回は「勿来雇用促進住宅集会所」「広野町民仮設住宅集会所」へ。今回は事前に救援委員長に「たこ焼きボランティア」のチラシを作成して配布までして頂いたこともあり、前回にもまして集まって頂き、材料が大幅に不足するという大盛況となりました。こちらの関西弁の会話が好評で私達の何気ない会話を拾っては笑ってくれました。午後には学校帰りの子供達も来てくれて一緒に焼いたりもしました。また、たこ焼きのおかげで普段は引きこもりがちなお年寄りも出てこられ、入居者同士のコミュニケーションがあり、硬い表情にも時折笑顔も見られるようになりました。

二回にわたる活動の結果、当初の不安な思いは無くなりました。この活動には、隣近所にどこのだれがいるのか全く分からない状況の中で集会所へ来て交流を持つてもらい、親睦を深め自分達の手で復興していく努力をしてみようという一つの目的がつけられるという一つの目的があります。十分なことができたのか全く自信はありませんが、今後は現地の社会福祉協議会復興支援センターの方だけでは難しいところもあるということなので、今回の訪問でこれからも我々にも出来ることあることに気が付きました。その一方で、実際に現地に足を運ぶことによって、仮設住宅とは違い、雇用促進住宅の方は行政からも忘れられがちで有益な情報が入ってこない、物品の配布が無い、ボランティアによる支援が少ないという問題、また、津波被害の被災者と原発被害の被災者との補償問題の違いなどの複雑な事情など、テレビ、ニュースだけでは見えない多くの課題も見えました。

今年の三月十一日には全日本仏教青年会主催による一周忌法要「東日本大震災追悼慰霊復興祈願法要」が福島県伊達市の曹洞宗成林寺にて執り行われました。私たちも参列し、改めて誰もが思う復興への気持ちを感じました。また、五月の大念佛寺万部法要にたくさん参加頂きました。「ぼさつさまぬりえ」のお願いごとにも多くの復興への願いが寄せられています。これらの気持ちを届ける為にも今回のような活動を継続的にやっていこうと会員同士再確認しました。

今後、私たちが声をかけ、僧侶として人間として今出来ることを共に考え、被災地がよりよい方向へ進んでいくことを願い、この度の活動の報告とさせて頂きます。

# 融通念佛宗 東日本

## 鎮魂法要

気仙沼 震災一周忌 追善法要  
菩薩来迎供養のご報告

菩薩役  
瀧野 演 澄

あの悲惨な東日本大震災からは  
や一年が過ぎました。

大津波によって命を奪われた多  
くの人間、いまだ行方不明のわがらな  
い人達の魂がご遺族の心の中に生  
き続けています。

私達、菩薩役一同は一月の会合  
において「もうすぐ一年を迎える  
にあたり何とか東北に行き、私達  
なりに手助けができることはないか、  
仏教者としては是非当り入りたい」と  
いう話が持ち上がりました。

愚僧の花園大学同窓生の寺院(宮  
城県気仙沼市波路<sup>なみち</sup> 臨済宗妙心  
寺派 地福寺)が津波の襲撃を受け、  
新築本堂の屋根と骨格だけを何と  
か残り、他の庫裡・墓地・鐘楼等  
全て流されたと聞き、心痛めてお  
りましたので、早速、住職の片山  
秀光師に一報を入れました。

一周忌の法要の有無を確認すると、  
片山師は「一周忌当日の追善法要  
はあらゆる所でされるので、地福  
寺としてはお速夜にあたる三月十  
日に震災追善法要を考えている。」  
とのことでした。

そこで「私達は大阪 大念佛寺  
の菩薩役であり、ご遺族の皆様を  
心からなぐさめるためにも菩薩来  
迎の練供養をさせていただきたく  
い。」旨を申し上げました。

それを聞いて片山師は感激の様  
子で、「瀧野君、そんな有難い菩  
薩様がお出でいただけるなんて、  
皆泣くよ！是非お願いしたい。」  
と仰っていました。菩薩役  
一同は早速ご本山に主旨を申し上げ、  
菩薩様のご出仕の許可をいただき

ました。東北方面への菩薩出仕は  
本宗の歴史において初めてのことで  
ありました。

三月九日夕刻、管長猥下の励ま  
しのお言葉を受け、五鉢の菩薩面・  
衣装・持物と共に一路東北に向け  
て出発しました。

長時間のバスでの道のりであり  
ましたが、十日午前十一時頃に気  
仙沼 地福寺に到着し、住職なら  
びに役員の方々に温かく迎えてい  
ただきました。



鎮魂法要(初沢亜利 写真集「True Feelings 爪痕の真情。」より)

寺周辺の状況は、少しずつ瓦礫  
が撤去されているというものの、  
まだまだ復旧に膨大な時間がかか  
ることを痛感し、津波到来時の惨  
状を想像するだけでも胸がしめつ  
けられる思いでありました。

地福寺震災一周忌法要である『震  
災メモリアル鎮魂の夕べ』には気  
仙沼の地元の皆様は勿論のこと、  
関係寺院・同窓生・専門道場法友  
など全国各地から支援者数百名の  
方々が参加され、私達も共に協力  
させていただきました。

夕刻、法要が開式され、真暗な中、  
大分県から運ばれた竹灯籠に火が  
入りました。関係寺院の読経の後、  
御詠歌の流れるなか五鉢の菩薩様  
が本堂前「祈りの広場」に進まれ  
ました。菩薩献花の後、数百名が  
集まり大数珠練りが始まりました。  
菩薩様はその数珠の輪の中に入り  
祈りを捧げました。

そして菩薩様は優しく手をさし  
のべ、ご遺族の方々と固く「み手」  
でもって握りしめられました。



肉親を亡くされた方から涙なが  
らに「ありがとう！本当にありが  
とう！こんな有難い菩薩様がお出  
でいただけるなんて夢のようです。  
決して忘れる事はありません。い  
つまでも私達の心の中に生き続け  
ていきますありがとう！ありがと  
う！」と幾度も感謝のお言葉をい  
ただきました。

この法要で観世音菩薩・勢至菩  
薩・日照王菩薩・月光王菩薩として  
地藏菩薩の五鉢の菩薩様の優しい  
「み心」を肌で感じていただきま  
した事を皆様にご報告申し上げます。

暖かい日本人の心で、仏の心で、  
固い絆のもと今助け合うことが、  
被災者を慰める第一の力であると  
信じます。大震災・大津波によつ



てお亡くなりになった方々のご冥  
福と、一日も早く被災各地が復興  
されます事を重ねて心からお祈り  
申し上げます。 合掌

### 極楽浄土の具現

気仙沼 地福寺 住職 片山 秀光

今年三月十日夕刻より、当山  
の「祈りの広場」にて『震災メモ  
リアル鎮魂の夕べ』と題した  
東日本大震災被災物故者の一周  
忌法要が営まれました。

地福寺では百五十一名が亡く  
なり、五十名を数える方が行方  
不明となっております。

その法要に大阪 大念佛寺の五  
鉢の菩薩様が犠牲者のために菩  
薩来迎練供養をして下さるとい  
う大変有難いお話をいただきま  
した。

夕やみが迫る頃、大分県臼杵  
佐伯から運ばれた竹灯籠に火が  
灯され、菩薩様がそれぞれに犠  
牲者にお供えをなさり、中央に  
お立ちになられてその周りを遺  
族が数珠を回しました。やがて  
広場いっぱい詰めた人々が念仏  
を唱え僧侶共にめぐる

「行道<sup>ぎやうだう</sup>」は、まさに人間曼荼羅、極  
楽浄土の具現でありました。これ  
もひとえに大学時代の同級生、松  
井寺の瀧野演澄住職の口添えと、  
大念佛寺の上人はじめ、宗門のご  
住職様、役員様、檀家様のご温情が  
暖かい光の輪となったのであります。  
法要がクライマックスを迎え「見  
上げてごらん夜の星を」の歌をみ  
んなで合唱した時に、それまで星  
ひとつ見えなかった真つ暗な夜空  
にキラキラと輝く星が三つ見えた  
のです。

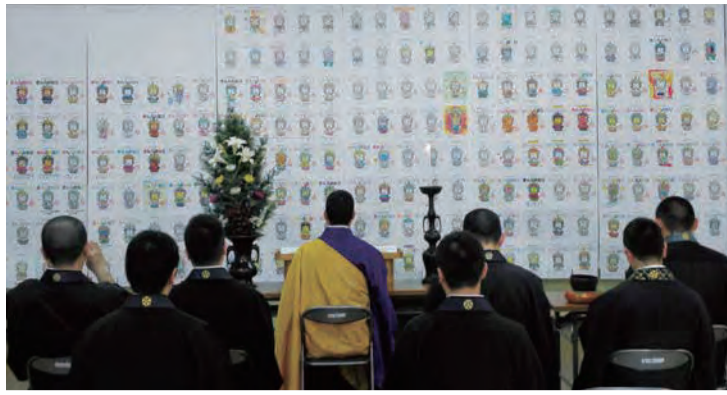
祈りが通じたのでしうか、そ  
の後、四名の方の身元が判明され  
ました。

心より感謝申し上げます、本当  
に有難うございました。

# ぼさつさまぬりえ展示報告

融通念佛宗 青年会会長 田 中 良 宏

本年も五月一日より五日までの万部法要中に本山境内お茶所におきまして「ぼさつさまぬりえ」の展示を行いました。



間中お越しになられた方々にもご参加頂き、今年は一、〇七七枚の作品を展示させて頂きました。

この展示も今回で第六回を迎え、万部法要の恒例行事の一つになってきたように感じます。

お父さんお母さんに手伝ってもらいながら描き上げた小さなお子さんの作品、また繊細な筆使いと色彩で見事に仕上げられた九十歳の彩りの菩薩様に添えられたそれぞれの願い、千の菩薩様と千の願いが集まりました。

## 九月十六日 数珠練り

大数珠を本堂外陣いっぱいに使って練って頂きます。

一人の念仏の功德が千人万人に融通して億百万ともいう大きな功德を生むことを表現した行事です。



## 御遠忌だより

新延喜殿着工に向け、いよいよ解体工事はじまる！

六月より解体工事は始まり、今秋には、いよいよ着工の予定。その他各種工事も開始。ご来寺の節は、駐車場などで工事期間中ご不便をおかけ致します。

### 御遠忌写経奉納について

好評につき御遠忌写経を追加でお書きされる方も増えております。以前にもお知らせしていますように、お書き頂いた御遠忌写経は、延喜殿に永代奉納させて頂きます。

平成二十七年 五月一日より 奉修  
開宗九百年記念 五月七日まで  
再興大通上人 三百回 御遠忌 大法要



人々から寄進を募り、珠は最大五、四〇〇個ありました。現在でも数珠は、直径が約七cmの櫻の珠をつないだもので、一々の珠に回向の戒名、施主名を刻み込んでいます。数珠練りの後、法主猊下による身体堅固のご祈祷を受ける事ができます。

インターネットで大念佛寺の情報をご覧下さい。

●JR大和路線「平野」から南へ歩いて5分  
●大阪市バス「19」「14」「JR平野駅筋」、近鉄バス「平野元町6丁目」下車すぐ  
●地下鉄谷町線「平野」①②出口から北へ歩いて8分

大阪市平野区平野上町1-7-26  
電話 (06) 6791-0026

<http://www.dainenbutsuji.com/>

インターネットで大念佛寺の情報をご覧下さい。

<http://www.dainenbutsuji.com/>

## 大念佛寺 年中行事のご案内 (八月～年末)

◎八月十六日(木) 午後七時 盂蘭盆・法界大施餓鬼

◎八月十六日(木) 午後八時 万灯会

◎九月九日(日) 午前五時 大和御回在御出光

大念佛寺から毎年大和地方に御本尊の天得如来の画軸を奉持し、鉦を叩きながら末寺と檀家の家々を回り、念佛勸進・御祈祷と先祖供養を行います。

◎九月十六日(日) 午前十一時 融通念佛会

ご一緒にお念仏を称えましょう。

◎九月十六日(日) 午後二時 百万遍会 (大数珠練り)

数珠練りの後、法主猊下の身体堅固のお加持が参詣者一人一人に授けられます。

◎十月十五日(月) 午前十時 亀鉦まつり

本山に伝わる亀鉦をお祀りする法要の後、融通教会会員による詠讃歌舞奉納、「亀鉦由来和讃」等を詠唱します。

◎十一月三日(土・祝) 午前十二時～午後二時 胎内仏納骨法要

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレビホン相談室

仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

本曜日：融通念佛宗・浄土宗

(月曜日～金曜日) 一月十日～十二月十四日 八月休

でんわ 〇六(六)四四五 五一一〇

午後二時～五時迄

◎十一月十四日(水) 午後一時 十夜会

本堂に於いて布教、詠讃歌舞奉納等があります。(厄除がゆ施与)

◎十二月十七日(月) 正午 大和御回在御帰院

◎十二月三十一日(月) 午後十一時 除夜法要 (鐘撞き、ぜんざい施与)

◎毎月二十六日 午後一時三十分 定例布教

★写経のご案内

毎月二十六日、午前九時三十分より午後三時まで、白雲閣にて写経(一巻千円)を行っております。

★納骨のご案内

本堂に於いて、午前九時三十分より午後四時まで年中無休で宗派は問わず納骨を受け付けています。

★瓦勧進のご案内

一口二千円で本堂に於いて受けております。

●お問い合わせ

大念佛寺宗務所

☎〇六―六七九―〇〇二六

融通念佛宗本山

## 大念佛寺

### 暑中御伺

- |      |    |    |
|------|----|----|
| 法主   | 倍巖 | 良舜 |
| 管長   | 吉村 | 暲英 |
| 宗務総長 | 中江 | 慈光 |
| 教学部長 | 岡田 | 眞澄 |
| 庶務部長 | 北川 | 全宏 |
| 財務部長 |    |    |